

名古屋を造った建築家と建築 そして都市デザイン

定員・回数：60人・2回
時間・場所：午前 10:00～11:30・研修室
費用：受講料 400円
講師：名古屋工業大学大学院 社会工学専攻 准教授 伊藤孝紀

東京大学に次いで、官立大学として建築学科が設立（1905年）された名古屋工業大学。その初代教授に着任したのが、鈴木禎次です。その後、彼による建築教育と建築の数々が、現在の名古屋を形成しています。そのルーツ（変遷）から現代に至る、建築家と建築を紹介するとともに、未来を見据えた都市デザインを提示していきます。

11/26(日)	<h3>名古屋圏の建築家と建築</h3> <p>明治期より現代に至る建築家の系譜を、体系的に紹介します。その上で、名古屋圏に現存する建築の時代背景や見所をお話します。温故知新、結果的に脈々と続く歴史を知ると共に、現在計画中のプロジェクトをみていきます。</p>
12/10(日)	<h3>100m道路から始まった名古屋圏の都市デザイン</h3> <p>100m道路は、戦後復興計画のなかで建設され、全国で実現しているのは、名古屋市と広島市のみです。なかでも久屋大通と若宮大通の100m道路は意義深く、これら象徴する都市計画を概観し、歴史を踏まえながら、そこで取り込まれている都市デザインの先駆的活動を紹介します。</p>